



協働活動の架け橋 地域学校協働 Letter

2026

9

VOL. 4

■ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の正しい理解、できていますか？

「〇月〇日 コミュニティ・スクールが開催されました」

ある学校のHPの内容です。活動を地域・保護者に伝達していて素晴らしい取組ですが……。正しい見出しにするにはどうしたら良いでしょう？

コミュニティ・スクールとは「学校運営協議会」が設置された学校を指します。つまり、正しい表記は「学校運営協議会が開催されました」になります。

学校運営の基本方針の承認

「基本方針が、『いい』とか『悪い』とか判断することではありません。本当の意味は、基本方針に沿って行われた教育活動の「成果」と「課題」を明らかにし（学校評価等を活用）、教育目標の具現化に向けた改善策を学校と地域と一緒に考え（学校運営協議会等で）、次年度の基本方針に反映されていることを「承認」という手続きを踏みながら確認することです。

地域で行われている活動が、全て「地域学校協働活動」ではない！

学校で行われている地域学校協働活動は……

- ① 地域と学校で、目標が共有されていますか。
- ② 活動のねらいが、目標達成につながるものになっていますか。
- ③ 地域と学校のパートナーシップ（信頼関係）のもとに展開されていますか。
- ④ それぞれの個人・団体の主体的な取り組みになっていますか。
- ⑤ 大人の学びの場になっていますか。（社会教育の一環）
- ⑥ 最終的に、子供の成長、地域づくりにつながっていますか。

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を考える前に、コミュニティ・スクールとは何か、地域学校協働活動とは何か、正しく理解する必要があります。

■ 古河市学校運営協議会、地域学校協働活動研修会

令和8年7月25日、古河市において、CSマイスターの安斎宏之氏をお迎えし、「学校運営協議会、地域学校協働活動研修会」を開催しました。

講演では、各校長のリーダーシップのもと、学校と地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働しながら子供たちの学びと成長を支えていくことの大切さについて、具体的な実践事例を交えながらお話しいただきました。

今回の講演を通して、学校運営に地域の声を生かすこと、そして学校と地域が「ともに子供たちを育てる」という当事者意識をもって取り組むことの意義を、改めて考える機会となりました。

